

アメリカの植物園に勤めて

國 分 尚

1986年園芸学部を卒業し、2年間研究室の手伝いをしておりました。

ロングウッド植物園

1989年4月より1年間研修生としてLongwood Gardens (ペンシルバニア州ケネットスクエア) で働きました。ジュボンの経営者の個人庭園であったところで、現在でもジュボンの豊富な資金で運営されています。

ここでは、植物をどう見せるかを勉強しました。きれいに見せることが目的で、年によりテーマを変えて展示を演出しています。更に、テーマに沿って季節ごとに展示変えをし、手をかけて植物を見せることを行っています。夜間もオープンしている時もあります。マザーズデイのような特別な日は、多くの来園者が訪れます。

ここでは研修生をたくさん受け入れていて、年に12~13人ほどがいました。

モリス樹木園

1990年6月よりMorris Arboretum (ペンシルバニア州フィラデルフィア) で1年間研修を受けた後、学芸員補佐として正式な職員となり、1993年2月までここで働きました。

植物園に所在している植物の登録のための植物園用データベースの世界標準であるBG-BASEに触れることができ、さらに、植物園用地図システムBG-Mapの開発に協力しました。

現在ではペンシルバニア大学の付属植物園ですが、ジョン&リディア=モリス兄弟の経営する鉄工所の資金で作られた植物園で、東アジアの温帯地域の植物を収集し、マグノリアのコレクションが有名です。

フィラデルフィアの郊外の丘陵地帯に位置し、彫刻と植物の融合がテーマです。教育や市民との繋がりを大事にし、近隣の小学校から児童を呼んで植樹祭を行ったり、近隣の小学校から見学に来る児童を、ボランティアが園内を案内をしていました。子どもが土や植物と触れ合う機会が減っていますので、野原に出て自然に触れる良い機会となっています。

また、社会人のクラスも開いており(10年前の受講料ですが、半年で90~200ドル)、近隣の人が受講しに来ていました。

園外に出ますと野生の林が広がっていて、ユリノキやアメリカハナミズキの野生の姿が見られました。北米東



部では、民家の庭に使われている植物は東アジアのものが多く見られました。日本の北部と似た樹木が多く、私には馴染みやすく感じられました。秋咲きのHamamelis virginianaの葉が落ちないで花が咲くのが見られてうれしかったです。

トンプソン植物園

1993年3月からは、BG-BASE、BG-Mapの経験を買われ、アリゾナのど真ん中にあるBoyce Thompson Southwestern Arboretum (アリゾナ州スベリオル) で植物記録担当・多肉植物コレクション主任としてカクタスガーデンの管理を任されて、毎日サボテンの棘に刺されています。

この植物園はソノラ砂漠の北の標高の高い場所にあり、変化に富んだ地形の中に位置し、年間降水量250mm、気温は50 になることもあります。周辺には、ホホバやペロカクタスなどが自生し、キングスネークやガラガラヘビなどの野生動物を多い場所です。

開園当初は、有用植物の収集が目的でしたが、現在は観賞植物で、南北の乾燥地、オーストラリアの植物を集めています。グージュムツリーが目玉となっています。

どの植物園も1週間に1度ほどフィールド研修がありました。その折に他の植物園に見学に行くのですが、いろいろなタイプの植物園を見ることができました。

日本と米国の植物園の違いは、それぞれの植物園には理念があり、研究・教育・レクリエーションの3つの柱があり、それにより運営されています。

アリゾナには3年間おり、サボテンの仲間を堪能させてもらいました。1996年4月より園芸学部採用され、現在に至ります。

(文責：編集部)